

9. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

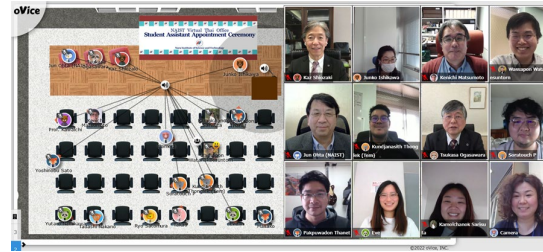
【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点等を活用した留学生の戦略的な獲得

本学は、アジア地域における教育研究連携の拠点としてインドネシア及びタイに開設した海外オフィスを活用して積極的な学生募集活動を展開している。令和3年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う渡航制限のため全面的にオンラインに切り替えて学生募集活動を実施した。学術交流協定校を中心に海外の学生を対象に「Online NAIST Study Abroad Fair 2021」を開催し、海外オフィス等との連携協力により約110人の参加者が本学教員・先輩学生と交流した(R3.10.9)。また、コロナ禍を含むいかなる状況においても継続的な活動ができるようタイ・バーチャルオフィス設置を決定し、タイ人留学生6名をオフィスの活動を支援する学生アシスタントに任命し、令和4年度からの運用開始に向けた活動を行った。



〈バーチャルオフィス学生アシスタント任命式の様子〉

○ 海外教育連携拠点との連携によるシンポジウムの開催

インドネシアオフィス6周年記念シンポジウムをオンラインで開催し、オフィスが所在するIPB大学の学長をはじめ、インドネシアの本学同窓生、8つの協定校の学生・教員を中心に約150名の参加を得た(R3.8.7)。シンポジウムではインドネシアとの共同研究・留学生受入を進めてきた本学教員が登壇し、長年に亘る教育研究連携強化への取組とその成果を共有した。



〈インドネシア6周年記念シンポジウムの様子〉

ガバナンス改革関連

○ UEAの配置によるキャリア支援体制の強化

平成29年度に確定した新たなUEAの人事制度(採用5年目に任期の定めのない雇用への転換がある高度専門職系職員)に基づき、令和3年度に教育推進機構・キャリア支援部門において留学生担当UEAを新たに1名採用し、日本人学生及び留学生に対するキャリア支援体制の充実・強化を図った。

○ イノベーション教育部門の設置

「技術人材育成」「アントレプレナー育成」「イノベーション教育」に主眼を置いた教育プログラムやFD事業を企画・運営するイノベーション教育部門を令和3年4月に教育推進機構に設置し、部門長、特任教授を配置した。

○ オンライン海外SD研修の実施

職員のグローバル対応力の強化を目的に実施してきた海外SD研修を、コロナ禍の海外渡航制限に伴い、初めてオンラインで実施した。事務職員3名が研修に参加し、自ら設定した研修テーマを、ハワイ東海インターナショナルカレッジ校及びマッコリー大学の職員へのインタビュー等を通して調査・研究し、研修成果を学内でフィードバックすることで事務局職員の国際性の向上と高度化に貢献した。

教育改革関連

○ デジタルグリーンイノベーションセンターの設置

地球規模の深刻な環境問題・食料問題の解決と豊かで持続可能な社会の構築を目指し、バイオエコノミーの理念の下、本学が世界に誇る植物バイオ/有用微生物分野の研究を基盤にデジタル技術を融合した「デジタルグリーンイノベーションセンター(CDG)」を設置した(R3.1月)。同センターは次世代デジタルグリーン科学技術を創造し、その成果を社会実装につなげていく。令和3年度はCDG主催による「研究者のための社会実装ワークショップ」シリーズ、「SDGs×CDGセミナー」等を開催し、イノベーションやSDGsへの貢献に向けた本学の方針・取組を学内外にアピールした。また、デジタルグリーン科学技術やイノベーションを担う人材を育成するための教育プログラム設置に向けた準備を進めた。

○ 教員向けオンライン海外FD研修等の実施

教員の英語による教育・研究・管理運営能力を高め、本学全体の教育・授業の質を向上させることを目的に海外FD研修を実施している。昨年に引き続き、海外派遣が不可能となったため、オンライン海外FD研修を実施した。研修には、情報科学領域、バイオサイエンス領域、物質創成科学領域の6名の教員が参加し、アクティブラーニングや授業設計方法、学生の巻き込み方等についてディスカッションを通して実践的に学んだ。

○ 国際FDウェビナーの実施

すべての大学関係者が大学の将来に向けたプランの策定とビジョン実現に向けたプロセスに参画するためのきっかけとして、UC Davisより学長・プロヴォスト補佐を務めるKenneth Burtis博士を講師に迎え、オンライン国際FDセミナー「大学運営・経営参画で得られた教訓 in UC Davis～NAIST次世代大学リーダーたちへ～」を実施した(R3.8.4)。セミナー前半は、UC Davisで得られた大学リーダーシップに関する教訓についてBurtis博士が自らの体験を語り、後半は「学長ビジョン2030」(自由記述欄参照)に関して意見交換・集約を行う演習を実施した。



〈UC Davis学長・プロヴォスト補佐を招いての国際FDセミナー〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

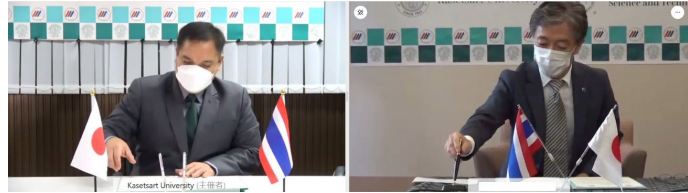
○ 全学グローバルキャリアパス支援

日本人学生の留学、海外挑戦の機運を高めるために、「海外留学 & グローバルキャリアセミナー」をオンラインと対面のハイブリッドで開催し、本学の海外留学プログラムや海外インターンシップについて経験者の体験談を交えながら情報提供を行った(R3.4.23)。このような啓発セミナーの継続的な開催や留学相談の随時受付を通して、コロナ禍にあっても学生の海外挑戦への意欲は衰えず、令和3年度の本学「長期留学支援事業」に5名が採用され、令和3年度中に2名が留学した(パリサクレー大学及びボン大学)。また、留学生向けキャリア支援では、海外経験豊富な2名のキャリア相談員を配置し、留学生限定の個別面談枠を設け年間362件の英語による個別面談を行った。さらに、日本企業に勤務するOBOG留学生との交流会や留学生採用意欲の高い企業による業界研究会、1日企業訪問プログラム等を実施した。その結果、留学生の高い就職率を実現することができ(博士前期課程92%、博士後期課程100%)、日本国内で企業就職した/Academia正規採用された留学生の割合は31.5%となった。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組(タイプBのみ)

○ ダブルディグリープログラムの強化

ダブルディグリープログラムについては、本学初となる博士前期課程のダブルディグリー協定をカセサート大学(タイ)との間で締結し、同大学との間でインターンシップ等を通して継続してきた教育研究交流を発展させ、国際共同教育を体系的に実施する枠組みを整備し、令和4年度秋からのプログラム開始に向けて準備を進めた。協定締結にあたって、双方の学長及びJICAプロジェクト関係者、タイ王国総領事等の出席のもと、オンライン調印式を挙行了(R3.7.14)。



〈オンライン調印式において協定書に署名する両学長〉

既存のダブルディグリープログラムについては、令和3年度中に3名、令和4年4月に1名の学生が新たにプログラムに入学し(ポールサバティエ大学:派遣1名、受入1名、パリサクレー大学:派遣1名、受入1名)、令和4年4月現在、9名(派遣5名、受入4名)がダブルディグリープログラム学生として国際的な環境で共同指導を受け博士論文研究に取り組んでいる。

○ グローバルキャンパスの実現に向けた取組

日本人学生と外国人留学生の国際交流の促進を図るため、職員宿舎一棟を改修し、令和3年4月よりシェアハウス型学生宿舎の供用を開始した。また、平成30年度に創設した「NAIST留学生アンバサダープログラム」の活動の幅を広げ、後輩学生に対するカウンセリングを主とする学生支援活動に加え、学内外でのイベント企画等の活動、PR活動を行うことになった。2021年夏、新アンバサダー制度のもと14名の留学生がアンバサダーとしての研修を終え、認定証を授与された。これまでにアンバサダーは地域の高校生による英語での研究発表へのアドバイス、オンライン留学フェアへの参加、来日を控えた留学生のための渡日前オリエンテーションのサポート等、学内外での活動に積極的に参加している。



〈留学生アンバサダー認定証授与〉



〈シェアハウス型学生宿舎〉



○ 海外学術交流協定学校との連携強化に向けた取組

コロナ禍により、現地渡航による海外学術交流協定校への表敬訪問を長らく実施できない状況において、令和3年4月から任務に就いた新執行部を広く紹介するために、本学との教育研究交流の実績が豊富なアジア地域の大学(インドネシア大学、ガジャマダ大学、IPB大学、アテネオデマニラ大学、フィリピン大学ディリマン校)へのオンライン学長表敬訪問を企画・実施した。オンライン表敬では本学の教育研究に関する最新のトピックスを紹介したほか、今後の連携協力に関して、協定校関係者と意見交換を行った。

■ 自由記述欄

○ 学長ビジョン2030

令和3年、創立30周年を迎えた本学が、次の30年に向けて「共創」をキーワードに新たな大学院像の創出に挑戦するにあたり、目指すべきところ、重点的・戦略的に取り組むべきところを取りまとめ、「学長ビジョン2030」として共有した。「学長ビジョン2030」は、2030年を見据えた本学の方向性である4つの「ビジョン」、ビジョンへの到達のための中長期の目標である16の「目標」、ビジョンや目標を達成するための主要な施策や取組である16の「戦略」からなっている。



〈学長ビジョン2030〉